

## 正中・尺骨・橈骨神経損傷（障害）の運動機能評価表の記載法

- I. 正中、尺骨および橈骨神経の総合的運動機能評価法としては、神経別に選定した6個の特定筋のMMTで計測した筋力（0～5点の6段階法）の和の、それらの筋力が正常である場合の百分比として表現する。

$$\text{各神経運動機能度} = \frac{\sum (\text{MMT}_1 \cdots + \text{MMT}_6)}{6 (\text{筋個数}) \times 5 (\text{筋力})} \times 100$$

- II. 損傷（または障害）神経の運動機能の自然経過または治療による回復度を評価するためには、神経別に選定した評価対象筋のうち損傷（障害）レベルより遠位の運動枝に支配される筋のみで評価する。

この際も損傷されている筋腱は評価の対象としない。たとえば手関節レベルでの尺骨神経損傷ではADM, ADP, IP3, ID1筋のみを評価の対象とし、

$$\text{損傷部より遠位の尺骨神経運動機能度} = \frac{\text{MMT} (\text{ADM} + \text{ADP} + \text{IP3} + \text{ID1})}{4 \times 5} \times 100 \text{とする。}$$

経時的にこのように算出した機能度を比較すれば回復度を判定できる。

- III. 上記の方法で算出した特定神経の%運動機能は、以下のような5段階評価として表示する。

段階	運動機能度
M0	0%
M1	39%以下
M2	40%～59%
M3	60%～79%
M4	80%以上

注1： 1. 正中神経支配の評価対象筋

円回内筋（PT）、中指または環指浅指屈筋（FDS）、示指深指屈筋（FDP）、長母指屈筋（FPL）、短母指外転筋（APB）、橈側手根屈筋（FCR）

2. 尺骨神経支配の評価対象筋

尺側手根屈筋（FCU）、小指深指屈筋（FDP5）、小指外転筋（ADM）、母指内転筋（ADP）、第3掌側骨間筋（IP3）、第1背側骨間筋（ID1）

3. 橈骨神経支配の評価対象筋

腕橈骨筋（BR）、橈側手根伸筋（ECR）、総指伸筋（EDC）、尺側手根伸筋（ECU）、長母指外転筋（APL）、長母指伸筋（EPL）

注2： 評価の対象に選定した上記の筋のうち損傷されているものは評価の対象にしない。